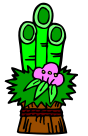


# 富士山自然学校通信 1・2月号



## 【新年を迎えて】

### 理事長挨拶

新年おめでとうございます。

引き続きコロナ第8波のうねりの中での年明けとなりましたが、昨年は日本でも「with コロナ」が進み、山中湖にも人の賑わいが戻ってきました。自然学校でも予定した企画でコロナのため中止となったものはありませんでした。学校団体のツアーも復活してきました。

一方、エコウォーク参加者の減少傾向やガイドの高齢化など、対応を迫られる問題も目に見えてきています。次年度に向けて会員の皆様のご意見を伺いながら対処していきたいと考えております。本年もよろしくお願い致します。



## 【アイスクャンドルについてお願い】

本年も山中湖の冬のイベントとしてアイスクャンドルが実施される予定で、観光協会より自然学校に対して協力要請がありました。つきましては、この時期に山中湖に滞在される会員の皆様のご協力をお願い致します。

1. アイスクャンドル予定日…2月18日（土）夕方
2. アイスクャンドル実施内容…ほぼ昨年と同様（原っぱのみ）

→アイスクャンドル総数 小キャンドル1100個、中キャンドル18個、大キャンドル10個

\*観光協会の意向で規模に変更が生じる可能性があり、作業時間等が変わる場合もあります

3. お手伝い要請内容…お手伝い可能な方は、事務局までご連絡下さい

・ペットボトル・牛乳パック成形作業（場所は昨年同様、ステージ2階控室）

1月23日（月）～25日（水） 10時～12時

（ペットボトルは地元飲料水メーカーから提供される「傷もの未使用・ラベル無し」を使用）

・牛乳パック水入れ作業

2月11日（土）9時半 ステージ2階控室、集合

12時半頃終了予定

・イベント当日（冷凍パック開封、配列、点火）

2月18日（土）13時半 ステージ2階控室、集合

17時頃終了予定

## 【12月の行事より】

12月5日（月）冬季講座「富士山の火山噴火とその災害」 講師 亀谷伸子 氏

亀谷先生は、細かなスライドで、大変わかりやすく説明して下さいました。以下、その概要です。

まず「火山としての富士山」について、富士山は標高が高いだけでなく、体積も噴出率も国内火山No.1。従って大量の溶岩流出や火山灰噴出が想定され、過去にも貞観の溶岩流出や宝永の降灰などがあった。しかし、このような大規模噴火は少なく、96%は小中規模の噴火だった。富士山の火口は主に北西～南東方向に分布し、平成16



年のハザードマップでも想定火口範囲は北西～南東方向を中心に行っている。その後、演習場内の「雁の穴」が噴火口と認定されたため、令和3年のマップでは北東方向にも拡大された。

次に「噴火に伴う災害」について、代表的な災害として、①御嶽山のような大きな噴石、②雲仙普賢岳のような火砕流、③富士山で可能性が高い溶岩流（危険度は低い）、④大量の降灰（発電・送電システムへの影響、交通網への影響など社会基盤への影響が大）などがある。

「山中湖周辺にある富士山の火山噴出物」としては、花の都方面に流れた鷹丸尾溶岩流と演習場内に見られる鷹丸尾火砕流がある。また、東大演習林内で試掘した結果、深さ6mの地層の中で多くの火山灰や火山礫の層が見つかり、約4000年間に少なくとも15回の噴火があったことが確認されている。その最上部が宝永噴火の火山灰である。

「火山災害の特徴」として、①発生頻度が低い、②災害要因が多様、③噴火現象と被害規模が一致しない、④長期化することがある、⑤予測はある程度可能だが不確実性が高い、⑥逃げる以外に効果的な対策がない等があげられる。的確に逃げることで人的被害を抑制できるが、噴火の時期・規模・様式・時間等は現在の科学ではまだ予測できないことを理解しておく必要があるとのことでした。参加者が10名と少なかったのが残念です。（当日配布された資料が若干残っていますので、ご希望の方はご連絡下さい）

**\* 12月13日（火）の会員集会は、直前に理事長がコロナ陽性となったため、中止になりました。**

## 【2月の予定】

**2月21日（火）冬の野鳥観察会（会員観察会） ←都合により21日（火）に変更しました**

**9時30分 きらら管理棟集合（双眼鏡をお持ちの方はご持参下さい）**

**高浦さんのガイドで「みさき」の野鳥・水鳥を観察する予定です**

**\* 会員集会（月例会）は1月～3月はお休みです。次回は4月4日（月）の予定です。**